

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	所内に籠らず地域の中で暮らすことを心掛けている。「そのままのあなたでいい」を事業所の理念として掲げ、職員全員が意味を理解し、尊厳を大切にしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に幾度も理念の共有を図っている。就業前に運営理念に目を通し、職員の自覚と意識付けを行うようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	所内の見やすいところに掲示しており、来所された方の目に付くようにしている。見学時や運営推進会議などで、地域の方や家族様に説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃より隣近所の方とは挨拶を通して顔なじみの関係を作るよう心がけている。近所の方から収穫された野菜や果物を届けていただいたり、秋に庭で成った柿を近所にお配りしたこともある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、校区民祭や夏祭りに参加したりと地元の人々と交流するよう努めている。	

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域に住む独居の認知症の方のケースについてのサービスの利用や、家族を取り巻く現状について話し合ったりしている。	○	こんなホームがあるんだという事をまずは民生委員の方に知っていただき、地域の高齢者やその家族の方に気軽に訪問していただけるよう働きかけを行ってきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員全員が理解しており、今までの評価を生かしてより良いサービスを提供できるよう、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況や、評価結果の報告を行い、具体的な意見を交わしていただいて、サービスの向上に生かしている。	○	定期的な開催を行うよう努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	頻繁に市の担当者とは連絡を取っており、サービスの質の向上に対しての意見を伺い、実際に取り組んでいる。	○	市から派遣される介護相談員の受け入れを今年度より行っていく予定であり、さらなる連携が取れるものと期待している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	セミナーに参加し、成年後見制度について学ぶ機会を持った。以前、成年後見制度を利用されていた利用者がおられ、関係者と密に連絡を取った。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて虐待について学び、全職員が共通理解をもつよう取り組んでいる。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	家族への報告内容の記録を行うように取り組んでいるところである。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	積極的に研修を受ける機会を設けている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修やセミナーもひとつの交流機会と考えている。法人内研修の一つとして大阪のGHとの交流会を毎年催しており、相互にサービスの質の向上に繋がっている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	運営者は管理者兼介護従業者でもあり、実際の介護の状態を理解しており、職員の疲労やストレスに配慮したり、職員間の人間関係も把握し、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員が向上心を持って働けるよう、個々にて自己評価を行う機会を作っている。それぞれの職員の長所・短所を理解し、楽しく働けるように取り組んでいる。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居間もない時期には信頼関係を築く事を第一と考えており、本音を話していただけるような雰囲気作りを心掛けている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族のこれまでの経緯を丁寧に伺い、苦労や苦悩について傾聴、共感するようにしている。	

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に必要であると思われる支援事業所を紹介したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時にレクリエーションに参加していただいたり、体験の機会を提供して入居を決められた方もおり、家族の希望に添えるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃から入居者の方に教えていただく事は数多くあり、「人生の大先輩」として尊敬の念を抱いて接している。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は入居者の一番の理解者であり、よきアドバイザーでもある。今までも、数多くの知恵をお借りしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年一回、家族をお誘いしての遠出を催している。遠方の家族は入居者の部屋に泊まれ、一緒に入浴や食事をされることもある。又、週末に家に外泊されたり、家族と外食されたり、それぞれに良い関係を築いて下さっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎年、年賀状を書きいただいている。贈り物(母の日や敬老の日のプレゼント、お歳暮)に対するお礼の電話や手紙を支援している。手芸教室で編んだマフラーを曾孫さんにプレゼントされた方もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席は入居者の相性を考え、全職員の意見を聞いて決めている。入居者同士共感が持てる話題やレクを提供し、仲間意識を強められるよう努めている。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居はほとんどが死去であるため、該当者がいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのちょっとした会話からも希望や意向を汲み取るよう努めており、家族を通じて把握できるときもある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からこれまでの暮らしや生活環境について伺っている。また、入居後にも入居者より伺い、把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	天気の良い日は散歩がしたい方、外出後は疲れが出る方、夕方になると落ち着かない方など、それぞれの個性を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	来所時に家族の意見や意向を伺う機会を作っており介護計画に反映させている。介護計画も定期的に目を通していただき、入居者がより良く暮らせるよう話し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。また、何らかの変化が生じた時にはその都度見直しを行っており、家族の意見を取り入れている。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェック票や生活状況を個別に記録しており、職員間で情報を共有しながらケアや、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診はほぼすべて職員が付添っている。本人や家族の要望に応じられるよう、柔軟な支援ができる体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方に手芸講師として月に2回教室を開いていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事例がない。必要があれば対応したい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席していただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、協力医療機関である医院や歯科医院にて受診されており、職員が受診時には付添っている。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度や終末期の方の看取り介護について職員の意識向上に努めていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや引継時など機会のあるごとに言葉掛けを意識するよう伝えている。前回の外部評価で指摘のあった記録の個別化を図るため様式を一新し、個人情報の取り扱いを徹底した。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	洋服や飲み物、レクリエーションなど日常生活の中で選ぶ機会を多く持つようにしている。数多い選択肢の中から選ぶのが困難な方には具体的な物を二つ見せるなど選びやすい工夫をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間はあってないようなもの。ゆったりときままに暮らしていただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を2ヶ月に1度全員が利用している。毛染めをされる方もいる。外出時にはマニキュアや化粧を支援している。化粧品などはホームで用意している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	餃子の皮包み、たこ焼きの時に活躍してくださる方。調理や後片付けを毎日してくださる方。普段はやらないけれどおせち料理は手伝ってくださる方。一人ひとりの力に合わせて手伝っていただき、充実感を持っていただけるよう支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎朝ヨーグルトを飲みたい方、お酒が飲みたい方、牛乳が嫌いな方など一人ひとりの状況に合わせて楽しんでいただけるよう支援している。	

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	今年より脱紙パンツに取り組んでおり、今まで紙パンツだった方3名を布パンツへ。自分から進んで排泄に行かれるようになったり、介護の負担もゴミの量も減っている。介護提供票にて排泄パターンをつかみ、できる限り排泄の失敗が無いよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、夕方に入浴時間を設けている。入浴好きで毎日入っておられる方もいる。夏場は基本的にシャワー浴とし、より多くの方に利用していただく。湯船に浸かりたい方には夏場も提供したりと、一人ひとりの希望に合わせてよう努めている。ゆず風呂、菖蒲風呂など季節感を出すようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に眠りたい時に眠っていただいている。寝る前に静かに読書をしたい方には自室に本棚とスタンドを設置。眠りやすい環境作りを心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事(食器拭き、廊下掃除、裁縫)や知識などその方の得意なことを活かした役割や活躍の場を作って、充実感を得ていただいている。また、外に出る機会を多くし、楽しみごとや気晴らしをしていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は該当者がおられない。以前、受診時や買い物の支払を自分でしていただけるよう支援していた。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	向かいがスーパーと立地条件に恵まれており、買い物や散歩など積極的に外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の長年の願いであった賀名生(あのう)梅林に昨春訪問。又、映画鑑賞やオープンガーデン見物に家族をお誘いしたこともある。外出は簡単に出来るんだと判ってくださった家族が今では2ヶ月に1度、入居者と二人で外出されるようになった。外出時にはホームの車椅子をお貸したり、準備も支援している。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は気軽に使っていただけるので入居者の掛けたい時には職員が電話番号を押し、入居者に代わっている。年賀状、お礼状などは宛名を代筆するなど難しい部分のみ支援させていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	遠方の家族は入居者の部屋に泊まれる方もいる。お正月には孫、ひ孫が勢揃いされ大勢での賑やかな時間を過ごされる方も。5人姉妹が数年ぶりに全員集合し、楽しい時間を過ごされ、記念写真を撮らせていただいた。入居者の家として気軽に訪問して下さっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関連のセミナーに管理者が参加し職員とも共通認識をもてるようミーティングなどで確認している。実際に身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。玄関にはセンサーチャイムで人の出入りを把握しており、無断外出の方の見守りに対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ほとんどの方が日中を居間で過ごして下さっており、間取りがLDKのため家事をしながらでも入居者の様子が伺える。記録も入居者の様子が見えるところで行っており、常に居場所を把握するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間は台所の包丁を閉まっている。鉋や洗剤などは普段から目に付きにくい所に置くようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティング後に勉強会を定期的に行い、事故防止のために学んでいる。マニュアルも目に付くところにおいている。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	赤十字の救急法の講習を受けたり、ホーム内で急変や事故発生時の応急手当や初期対応の訓練を行っている。又、夜勤帯の急変や事故発生時には近くの職員の応援体制も整えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所や避難方法について職員間で話し合う機会を設けている。	○	地域の人々の協力を得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて家族に説明し、対応策を話し合ったり、助言をいただいたりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の検温、血圧測定、毎月の体重測定、三ヶ月毎の受診にて健康管理に努めている。異常があれば即管理者に報告するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には全職員が説明書に目を通すようにし、薬の目的や副作用、用法、用量を確認している。すぐに確認できるよう既存の薬についてはファイルしている。投薬ミスのないよう、ダブルチェックの体制をとっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	お通じに良いといわれる野菜を活用したり、ヨーグルトを出したりと、個々の状況に応じて対応している。また、お腹の体操も取り入れている。野菜中心のメニューのためか入居者の便秘も改善傾向にある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きや口腔ケアを支援している。歯科受診や往診を受けている方もあり、受診時付添いも職員が行っている。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量と一日の水分量のチェックを行っている。一人ひとりの状態や習慣に応じ、別の料理を提供し、その方が食べられるような支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いの励行、室内の温湿度の管理などを行っている。入居者や職員のインフルエンザ予防接種をホーム負担で受けれるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁やまな板は野菜用と肉魚用に分けて使用しており、定期的に消毒を行っている。食材は自家製野菜が中心であり、肉類は国産を用いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改修型のため、周囲に馴染んでおり親しみやすく尋ねやすい雰囲気を持っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置いている家具にも気を配っており、生活感や季節感を感じ取れるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキやサンルーム、廊下のいろんなところに椅子を置き、思い思いのところで過ごしていただけるよう工夫している。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥や鏡台などいろんな家具を持ち込まれている。本が好きな方には本棚を設置し、心地良く過ごしていただけよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	昔ながらの民家のため風の通りがよい。温湿度計を置き、室温・湿度にも注意している。過度な冷暖房はせず、季節感を出すのがうちのモットーです。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や廊下に段差があるが、入居者の状況に合わせて手すりを増設したり、工夫をしたりしている。言葉掛けや見守りで安全に生活できるよう援助している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにパットを流してしまわれる方がおり、ダンボールを被せてレバーを隠す対応をとった。入浴自立を支援するため、必要なもののみ見える場所にセットし、入居者の力を活かす続けられるような工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い庭を自由に散歩できるようになっており、天気の良い日は積極的に外へ散歩に出かけている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

グループホーム夢野家Ⅱ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四季の移り変わりを目で、肌で感じていただけるホームです。

少人数1ユニットのため、フットワークも抜群で春から秋にかけて季節の花を散策したり、映画鑑賞、お祭り見物などなど行事が満載です。

入居者一人ひとりのペースにあわせた、ゆったりとした時間となるよう日々取り組んでいます。